

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1092600020		
法人名	医療法人社団 高仁会		
事業所名	みんなの家なかんじょ		
所在地	群馬県吾妻郡中之条町中之条967		
自己評価作成日	平成23年3月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成23年4月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

認知症介護の専門職として、必要な知識、技術の習得として、群馬県で行われている(認知症介護基礎研修や実践者研修)の受講をはじめ、施設内研修にも力を入れ、入居されている方が理念に沿った暮らしができるように職員教育に取り組んでいる。調理や掃除、洗濯といった家事のみにとられず、畑仕事や大工仕事など男性も楽しめるような工夫をしている。又医療法人としての強みを生かし、日々の健康管理や医療機関との連携にも力を入れている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

入居者それぞれの力が発揮できるように、職員は常に気づきを大切に支援している。気づきは、職員が入居者毎の「気づきノート」にその根拠も記載し、職員全員で話し合って支援方法を決定している。それは、料理の味付けから盛り付け、うどん打ち、大工仕事、雑巾縫いなど、日々の生活のなかで活かされている。また、理念にある「地域社会の中での交流を大切にしたい」支援の実践に向け、毎日町の商店で食材の買い物をしたり、町の祭りに参加したり、保育園や幼稚園との交流を図るなど、さまざまな機会をつくり地域のなかの一員として関わるよう努めている。事業所は職員の資質向上にも力を注ぎ、県介護支援センター主催の認知症介護基礎研修・実践研修の受講の他、研修委員会を発足し、職員アンケートを基に研修計画を立て「排泄コントロール」「食中毒と感染症」等月1回の職場内研修を開催するなどの取り組みも行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に基本理念が記載された名刺大のカードが配られ所持している。月1回理念に沿ったケアが実践されているかカンファレンスで話し合っている	理念はパンフレットに記載し、入職時に管理者が理念を説明し名刺大のカードに印刷した理念を全職員に配布して、常に意識し迷った時には立ち返れるようにしている。また、月1回のカンファレンスや勉強会で理念に沿ったケアが行われているか話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の祭典などへの参加。周辺の商店への買い物、公的施設を利用し、交流を図っている	地域のなかの一員として関わりたいと考え交流に努めている。商店に食材を買いに行ったり、ホームのうさぎのえさに野菜くずをもらったり、入居者がつくった雑巾を入居者とともに保育園に贈呈し、園児と過ごすなどさまざまな機会を作り交流に努めている。また、町の祭りでは山車が玄関先に来て入居者が太鼓をたたいたり、ホームの夏祭りに町の人達が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで地域の人や家族をまねき行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見をカンファレンスや連絡ノートなどでスタッフに報告しサービス向上に生かしている	事業所をオープンにしていこうと考え、会議ではホームの状況や活動・ヒヤリハット・外部評価結果を報告したり、ノロウイルスなどの情報を発信している。会議開催は、全家族に案内をしている。会議の意見を活かして、節分に青年団にまめまきに来てもらったり、消防訓練に消防団が来るなどさまざまな取り組みをしている。会議は、22年度3回開催している。	2ヶ月に1回定期的な開催をするよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターが主催する情報交換会、研修への参加。町や他の事業所と制度改正等の情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターが主催する情報交換会が隔月に開催され、制度改正などの情報提供や虐待の会議などが行われている。また、町の介護事業所間でメールのやりとりが行われ、空き情報などを発信している。その他、実施指導の際等にホームの考えを伝えることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員ではないが、新人職員研修時に身体拘束の研修をしている。日中は玄関の施錠もしないようにしている。エレベーターは暗証番号になっているため、番号を見えるところに貼っている	ホームは建物の2階・3階にあり、外に出ていこうとする入居者や窓の外を見るなどのしぐさを観察して、職員が一緒になって外に出ている。昨年の外部評価を受けて話し合い、エレベーターの暗証番号と「押してください」と表示したり、エレベーター前の引き戸の鍵をできるだけ開けるようにしている。1階の内扉も施錠されている。	入居者の安全を確保しつつエレベーターや玄関の出入りが自由に行えるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払	職員内でお互いに指摘しあえる環境を作っている。そのような行為があったときはカンファレンスで話し合う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員とまでは行かないが研修に参加し資料を書く職員に配布している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設を見学して頂き重要事項説明や契約を通して説明している。不明な点についてはその都度対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、相談窓口を設け、意見も箱も設置しており、運営推進会議や面接、電話連絡時においても希望を言いやすい関係を構築しているよう努めている	入居時に苦情相談窓口の説明を行い、玄関に意見箱を設置し、エレベーター内にも相談窓口の案内を掲示している。また、日頃から家族とは密に連絡をとりやすい関係づくりに努めるとともに、「便り」でも呼びかけている。居室の清掃に関して問合せがあった場合にも、事業所の考えを説明して取り組みを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーミーティングを定期的に行ったりケアカンファレンスで話し合える機会を設けている。職員の意見箱も設置している	これまで「気づきノート」を設置していたが、職員がもっと意見を出せるように「意見箱」を職員休憩室に設置し、「みんなの気づき・アイデア・意見など」の用紙を備えている。ミスプリントの用紙活用の意見があり使用するなど、意見を検討して取り組んでいる。また、管理者は4月と10月の人事考課にあわせて個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課の際に管理者と個人面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の勉強会や外部の研修にも参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換会や同グループ内の事業所と月1回合同で勉強会を行い交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い本人と話をし、要望、不安などを把握している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面接の段階で家族の抱えている問題を聞かせて頂き不安が解消できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険などの在宅サービスもふまえた相談業務を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とスタッフが一緒に作業し、感動や達成感、楽しみを共有できるような関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と電話連絡や面会時に近況報告や要望、意見等を伺うように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家に帰りたいたいと要望があれば自宅まで行ったり馴染みの床屋にも行ったりしている	馴染みの関係は、面会の時等に家族から聞いて把握している。昔ながらの床屋に行けるよう送迎の支援をしたり、入居者の様子から職員が提案し自宅まで行ったり、時には季節の花摘みに自宅へ職員と行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の性格を把握し必要に応じて職員が間に入るなど対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在退去後は医療機関の入院が殆どであるため、時々見舞いに行く		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回カンファレンスで気づきシートを使いその人の思いに沿った生活が出来るよう把握に努めている	うれしそうだったとか嫌な顔をしたとか、職員の気づきを拾い上げて思いを把握するようにしている。認知症の人の行動には意味があることを理解し、職員は「気づきシート」に個々の入居者の困っていること・根拠・どうしたいか・支援できることを記載し、ケアカンファレンスで検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境など家族や本人から話を伺い把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録に記載し、変化があれば申し送りを随時行う		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から生活の意向を聞きカンファレンスで気づきシートを使用しながら職員同士で話し合い計画書を作成している	理念に沿い地域社会の中での交流を大切にしたい支援のため、「気づきシート」を基に、面会時の家族の意見や看護師からの視点をふまえて作成している。作成後、1ヶ月後にモニタリングを行い修正をしている。基本的に見直しは6ヶ月毎に行い、身体等の変化の都度修正し家族に説明し話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録ではないが気づきシートに記入し、カンファレンスで話し合い実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家と同じような生活が送れるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練では地元の消防団が参加したり、地域の保育園児が慰問に来ている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関の往診、また入居前からのかかりつけ医がある方は要望を聞きながらそちらで受診して頂いている。	かかりつけ医は、入居前からの主治医としていますが、ホーム協力医による月2回の往診があることを伝え希望を聞いている。受診は事前に家族へ同意を得て職員が付き添い、ホームでの様子を伝えている。大切な話など家族の判断が必要な時には、家族と職員で受診している。受診後には、必ず家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常があった場合はすぐ看護師に連絡相談し指示を仰ぐ。また、看護師に相談するノートをつくり看護師の訪問時に確実に伝えられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には普段の状態を申し送り退院時にはサマリーを頂いている。分からないときは病院に連絡し聞いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療関係者が家族と連携を図り、安心して納得した齋木を迎えられるように検討している	看取り介護の具体的援助方法や家族に対する支援が記載された「看取りに関する指針」があり、重度化した場合に説明をしている。入居時には、緊急時の意向確認書を取り、緊急時に備えている。今後、職員教育を充実し、医療機関との連携を密にするなど体制整備を図ることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的研修を行っている。急変時の対応ファイルも設置している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的防災訓練を行い、地域の消防団にも参加してもらっている	日頃から業務日誌に点検事項の欄を設け、記載者がチェックして安全確保に心がけている。また、年2回の防災訓練の内1回は夜間を想定し、初期消火・通報など入居者が避難できるように訓練している。訓練には、地域の消防団・区長・民生委員にも参加して頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人を否定しない声かけを行い、スタッフ同士声かけなど注意を払いながら行っている	人生の先輩として敬語を使いながら入居者の声に耳を傾け寄り添うようにしている。時には、方言を使いながら堅苦しくないようにしている。居室は自宅という考えで、必ずノック・言葉かけをして入室し、着替えの際には入室を遠慮するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶のみの時など今日はなにをするのか、食事はなににするか話し合える場を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間などは決めずに外出など希望があればその都度対応し、入浴の時間や就寝時間など本人のペースに合わせるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪店へ出かけたり、女性の入居者にはマニキュアを塗る人もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を把握するため表を作成。入居者とスタッフが一緒に調理をし、ホットプレートを活用しながら囲んで料理できるよう支援している。昼食も同じ食事をスタッフも一緒に食べるようにしている	入居者は職員と共に味付け・盛り付け・食器洗いを行ったり、箸を自分でとるなどできることをしてもらっている。家庭菜園で収穫した野菜を食卓にのせたり、バーベキューをしたり、時には入居者の得意なうどん打ちをしたりして、食事を楽しんでいる。嗜好表に好き嫌いや禁食等を記載して把握し、その日の折込広告を見ながら入居者と献立を決めて、毎日食材の買い物に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間表に毎食の食事摂取量や水分摂取量を記入し、食事が摂れない方、少ない方には間で食べてもらえるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方は毎食後残渣確認をしているが、自立している方は夕食後もにとなっている。夜間に義歯をポリデントで消毒している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツを使用している。尿意がある場合はその都度対応。尿意が無い場合は時間毎にトイレ誘導している	24時間表で排泄チェック表を作成し、時間で誘導したり、そわそわしたり立ち上がるしぐさを察知してトイレへ誘導しトイレでの排泄ができるよう支援している。失敗した場合には、その方が申し訳ない気持ちでいるので、できるだけさりげなく声かけしてトイレで変えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物残渣の多い食材や、朝牛乳など乳製品を飲んで頂いたり、散歩の機会を増やしたりしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜に入浴希望がある入居者是对応できる範囲ではあるが、夜に近い時間帯に入浴して頂いている	入浴は週3回、夜間入浴が通常の家生活生活を継続するため夜に近い時間に入り温まって眠れるよう支援している。夜間入浴をする人もいる。時には、デイサービスの岩風呂に入って背中を流し合ったり、近くの公園の足湯を楽しんだりしている。入浴を嫌がる方には、声かけを工夫して風呂場まで誘導しその気になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜はパジャマに着替え、昼と夜のメリハリを付けている。夜遅く、起床の遅い方は様子を見ながら本人のペースで特に時間を決めていない		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をいつでも見られるように個人ファイルにはさみ、変更があれば業務日誌や経過記録に記載し、スタッフ全員が把握できるようにしてある。服薬時にはスタッフ2人がチェックをしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や得意なことを把握し、その人が進んで取り組めるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近所の買い物等屋外へ出かけられるよう努めている。1日かけて出かけられるような場所には事前に計画書を作成し家族にも連絡している	10時のお茶の時間に入居者とスタッフで「今日は何をします?」「何が食べたい?」等話し合い、毎日食材の買い物や散歩に出かけて、業務日誌に記録している。近くの公園を散歩する際には、足湯に浸かったりしている。また、季節にあわせて嵩山のこいのぼりを見に出かけたり、入居者の希望で敷島公園のバラを見に出かけたり、ドライブに出かけている。遠出の際には、家族にも案内をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫での管理であるが、買い物時財布を持って頂いたり、会計も出来る方にはして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキでの便りが来ると返事を書いたり、年賀状を出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り付けを行ったり、湿度、温度チェックは1日2回行っている。テレビや音楽の音もあまり大きくなりすぎないようにしている	それぞれのユニットの職員で話し合っ、空間づくりをしている。職員の提案から居間の一角に畳コーナーを設けてこたつを設置している。こたつには、お茶菓子・コーヒーやお茶を置いて家庭的な雰囲気をつくっている。また、季節毎に外出や行事の写真の張り替えたり、入居者の自宅にあったスズランを飾ったりして、季節を感じ取る工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こたつが好きな方はこたつで過ごして頂いたり、ソファが好きな方はソファで過ごして頂いたり、思い思いに過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を貼ったり、ダンスや兄弟などご本人の使い慣れた物を使って頂いている	ダンスや鏡台・これまで使っていた裁縫道具・息子が製作した日本人形・お洒落好きな方に職員がプレゼントしたマニキュアなどが持ち込まれている。持ち込みが難しい場合には、ホームでの写真をアレンジして掲示したりしている。また、各居室には加湿器を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が分かりやすいように棚などにテープで食器や器具の名前を張っている。畳スペースの縁につまづき防止のため、テープを貼っている		